

年 長 児 保 育 案

うみ組 男児15名 女児17名 計32名
保育者 味園 佳奈 鳩宿 恵理香

1 幼児の実態

子どもたちは、園内の様々な環境に積極的にかかわりながら、友だちと一緒に好きな遊びを楽しんでいる。様々な出来事の中で、その時々思いがうまく伝わったことで遊びがより楽しくなったり、相手に伝わらずに困ったりするなどの経験を通して、相手の思いに気付き、互いのよさを認め合いながら遊ぼうとする姿も見られ、友だちとのつながりも深まってきている。園全体で楽しむ活動に中心となって取り組む経験を通して、友だちと協力してやり遂げる達成感を味わい、自信を深めるとともに、年下の友だちのかかわりも深まってきた。優しく遊び方を教えようとしたり、進んで手伝おうとしたりする姿も多く見られ、年長児としての自覚も一層高まっている。

園庭では、今の季節ならではの事象に心を動かされ、霜柱を探したり、試行錯誤しながら氷をつくろうとしたりする姿が見られる。ヒヤシンスや大根などの成長の変化にもよく気付き、感動を友だちや保育者に自分なりの言葉で表現している。また、鉄棒や縄跳び、鬼ごっこなどの遊びも楽しんでおり、体を動かして遊ぶ気持ちよさやルールのある遊びの面白さを味わっている。

室内では、空き箱やロールペーパー芯などの身近な素材を使って、自分がつくりたいものをつくる姿が見られ、自分なりにイメージをもち、色や形にこだわって工夫している。また、つくったものを使って友だちと一緒に商店街ごっこをする姿も見られ、遊びに必要なものや遊びの進め方などを話し合ったり、自分たちのイメージしたものを表現しようとしたりしている。大型積み木で家や秘密基地をダイナミックにつくり、その場所を生かして遊ぶ姿も見られる。友だちと力を合わせて、積み木の組み合わせを考えながら組み立てたり、役割を相互に決めて目的をもって遊んだりしており、動きや言葉などで表現する楽しさ、それらを友だちと共有できる喜びを味わっている。

このように、子どもたちは今ならではの季節を肌で感じながら、身近にある環境に興味をもってかかわり、様々なもののよさを自分への刺激にしてよりよく生活をしていこうとしている。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、身近な環境に興味をもってかかわり、友だちをはじめ、様々なもののよさを自分への刺激にしながら遊びを進めている。

そこで、今の時期ならではの遊びを友だちと刺激し合いながら進めていくことを通して様々な感動を味わえるようにするとともに、その得られた感動から思ったり、考えたことを言葉にして、友だちや先生と伝え合う姿を大事にしたい。

氷つくりや霜柱探しなどの自然との触れ合いでは、氷の冷たさや不思議さ、面白さなどの様々な感動体験が期待できる。感動を子どもたち一人一人がじっくりと味わい、友だちや先生と「霜柱を見つけたよ」「たらいの水が氷になっているぞ。どうしてだろう」「(向こう側が)面白い形に見えるよ」などと感じたことを伝え合い、感動を共有したり、互いの感じ方・考え方の違いに気付いたりしていけるようにしたい。また、鬼ごっこをしたり、鉄棒や跳び縄などで遊んだりすることを通して、その遊びの面白さはもちろん、風の冷たさや体が温まる心地よさも味わえるようにしたい。

商店街ごっこでは、友だちと共通の目的をもって遊びを展開することを通して、工夫したり、協力したりする楽しさを味わうことが期待できる。小枝や石などを何かに見立てて、何でも屋さんや恐竜博物館などを開き、「ここでボウリングができるようにしましょう」「これはトリケラトプスの化石なんですよ」などとアイデアを出し合ったり、お客さんとやりとりしたりして、様々な友だちとかかわって遊ぶ面白さを十分味わえるようにしたい。

こうした遊びは、今後、様々な物事への興味や関心を広げるとともに、集団の中のかげがえのない一員であることを味わい、仲間への信頼感を一層高めるようになる姿へとつながっていくものである。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 学級の友だちと共通の目的をもって、思い切り遊ぶ。
- 自分たちで工夫し合い、友だちとのつながりを深めながらいろいろな遊びを楽しむ。

(2) 内容

- 自分たちなりの目的をもち、見通しをもって学級の友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
- これまでの経験を生かし、学級の友だちと協力して園生活を楽しむ。
- 年下の友だちに親しみの気持ちをもってかかわり、優しく教えたり、リードしたりしながら一緒に遊びを楽しむ。
- 氷や霜柱など冬の自然に触れ、その不思議さに気付き、興味をもってかかわる。
- 冬の健康な生活の仕方が分かり、手洗い・うがいや衣服の調節など進んで行う。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友だちと共通の目的をもって、商店街ごっこや鬼ごっこ、自然との触れ合いなどの遊びを楽しむ。
- 互いにイメージを伝え合い、そのよさを取り入れながら、いろいろな遊びを楽しむ。

(2) 内容

- 友だちと共通の目的をもって、役割を分担したり、進め方やルールを話し合ったりしながら遊びを進める。
- これまでの経験を生かし、身近な環境に興味をもって遊びに取り入れ、友だちと工夫しながら遊びを楽しむ。
- 年下の友だちに優しく接し、遊びの仲間に入れたり、遊び方を教えたりする。
- 氷をつくろうとしたり、霜柱を探したり、植物の変化に気付いたりするなど、この時期ならではの自然に触れ、興味をもってかかわる。
- 手洗い・うがいの大切さが分かるとともに、衣服の調節を進んで行う。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 互いにアイデアを出し合って、遊びを進める姿を大切に、様子を見守りながら保育者も仲間に入り、遊びの面白さに共感していく。
- 年長児としての自信を深め、人の役に立つ喜びが味わえるように年下の友だちに優しく接する姿を見守り、褒め励ましていく。
- 友だちと誘い合いながら、手洗い・うがいや衣服の調節など進んでしようとする姿を認め、励ましていく。
- 降園時の活動では、一日を振り返る中で、互いに気付いたことや感じたことを伝え合い、みんなで共有できるようにしたい。

イ ものとのかかわり

- 友だちとの遊びが十分楽しめるように、必要な素材や用具を用意したり、空間を確保したりしておく。
- 身近にあるものや遊具、用具などを使って、自分なりに目的をもち、試したり、考えたりしながら遊ぶ姿を認め、満足感、充実感を共に味わうようにする。

ウ 自然とのかかわり

- 氷や霜柱など冬ならではの自然をはじめ、ヒヤシンスや大根、園庭の木々の変化などに興味をもってかかわる姿を受け止め、気付いたことや感じたことを友だちや保育者と伝え合いながら、自然の不思議さを感じられるようにするとともに、不思議に思ったことを一緒に考えたり、図鑑で調べたりしていく。
- 冬の寒さの中で、日なたの暖かさや体を動かして遊ぶことで体が温まることを共に味わうようにする。